

# (一社)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム 令和3年度 第3回ナノ理工学情報交流会 「これからの地球環境を考える」

本年度第2回目のナノ理工学情報交流会を開催いたします。産学双方の意見交換の場として、コンソーシアム会員をはじめ、ご関心をお持ちの多数の方々のご参加を歓迎いたします。

**主催:** (一般社団法人)大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム  
**共催:** 大阪大学ナノサイエンスデザイン教育研究センター、  
大阪大学産業科学研究所産業科学ナノテクノロジーセンター

**開催日時:** 令和3年12月23日(木) 13:00~17:20

**開催場所:** 大阪大学豊中キャンパス 文理融合型研究棟3階305号室

**遠隔配信地:** 四日市商工会議所サテライト教室  
また、オンラインでの配信も予定しております。下記に記載している事務局まで、参加のお申込みをお願い致します。ご指定のメールアドレスに情報交流会参加の招待メールを送付致します。

**開催趣旨:** 近年、温暖化や廃棄物の増大など地球環境悪化への懸念は急速に高まっている。また、本年度のCOP26開催を機に、脱炭素化等の動きが更に加速されるものと予想される。このような背景を踏まえ、本交流会では、低炭素社会実現に向けた国の施策や、地球環境を考えるうえで重要となる材料技術について解説する。

**費用:** コンソーシアム会員、学生及び大阪大学教職員は無料。  
(コンソーシアム企業会員の場合、社内から何名でも無料で参加が可能です。)  
四日市市商工会議所、けいはんなR&Dイノベーションコンソーシアム会員、大阪商工会議所の技術・事業開発研究会及び環境・エネルギービジネス研究会の会員企業は無料。上記以外の参加者は資料作成費として5,000円/人を頂戴します。

**参加登録:** 氏名、所属、参加会場あるいはオンライン参加、連絡先住所を記載の上、メールにて大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局へお申込み下さい。

E-mail: nano-cons@nanoscience.or.jp

HP: <http://www.nanoscience.or.jp/>

**登録締切:** 令和3年12月16日(木)

**問い合わせ:** 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム事務局  
TEL:06-6853-6859(FAXと共通)

## [講演プログラム]

13:00   13:10	<b>開会挨拶</b> 大阪大学ナノ理工学人材育成産学コンソーシアム 代表理事 伊藤 正
13:10   14:10	<b>三菱ケミカルのサーキュラーエコノミーへの取り組み ―バイオプラスチックを活かして―</b> 佐野 浩 氏（三菱ケミカル株式会社 サーキュラーエコノミー推進本部）  技術の発展に伴い、石油化学の主要な産物としてプラスチックが我々の生活に浸透し始め四分の三世紀を経、昨今のプラスチックにまつわる諸問題は、エネルギーや資源を私達が今後どのように使っていくか見直す契機となった。本会では、社会と経済を持続可能な循環型にしていくための基本的な考えであるサーキュラーエコノミーと、そのツールの一つであるバイオプラスチックの活用を、意義、現状、展望を交えて紹介する。
14:10   15:10	<b>農山漁村における再生エネルギーをとりまく状況</b> 西尾 利哉 氏（農林水産省 大臣官房 環境バイオマス政策課 再生可能エネルギー室 室長）  2050年カーボンニュートラル達成に向け、野心的な目標として2030年のエネルギーミックスが定められています。他方で、食料自給率は、世界的にまれにみる低い水準にあります。このため、農林水産業を切り口に、我が国の置かれている状況と、農山漁村の発展に資する形での再生可能エネルギーの導入促進などについて述べたい。
15:10   15:20	(休憩)
15:20   16:20	<b>脱炭素地域社会構築に向けた潮流と社会実装、イノベーション</b> 加藤 聖 氏（環境省 地球環境局 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室 室長）  台風や大雨など気候変動の影響が顕在化している中で、国内外のカーボンニュートラルに向けた動向・潮流を紹介する。世界の潮流を踏まえ、地域の脱炭素化に向けた政府全体や自治体等の地域での取組状況を紹介するとともに、ナノテク技術を含む2050年を見据えた脱炭素イノベーションの取組を紹介する。
16:20   17:20	<b>ナノ構造体を活用する触媒設計と環境調和型反応への応用</b> 山下 弘巳 氏（大阪大学大学院 工学研究科 教授）  カーボンニュートラルに貢献できる水素・炭素循環などの環境調和型反応への利用を目指し、ゼオライト・メソポーラスシリカ・金属有機構造体のナノ細孔空間や薄膜界面などのナノ構造体の特殊反応場を活用することで、シングルサイト光触媒・プラズモン触媒・非平衡合金触媒など従来の触媒と異なった特徴ある構造を持つ高性能触媒・光触媒を開発している。

### オーガナイザー:コンソーシアム企画運営委員

沖野 剛史	(株)東芝
小澤 伸二	(株)カネカ
前田 和幸	住友電工(株)
鈴木 啓悟	(株)村田製作所
大野 法由	JSR(株)
山木 健之	パナソニック(株)
伊藤 正	大阪大学
藤岡 透	大阪大学